

利用者の気持ちになって排泄介助を考える

2年7組 20番 桜庭 光

37番 山下 希

実習施設：ナーシングホーム市川

～なぜこのテーマにしたのか～

- 1 パンツからおむつに替えた利用者の、気持ちの負担を考えてみたかった。
- 2 利用者と同じ体験をすることで、利用者の気持ちに近づけると思った。
- 3 紙おむつのデメリットである『かぶれ』を予防する方法を、考え次の実習に活かしたいと思った。
- 4 排泄の自立支援とは？

介護場面の実際

課題1 『利用者の気持ちになってみる。』

☆紙おむつを使用している利用者と同じ体験をするために、自分たちで一晩紙おむつを履いてみた。

履く前の紙おむつの印象		履いた後の紙おむつの印象	
身体面	・ギャザーの部分が、皮膚にあたっにかゆいと思う。 ・熱が集中して、起床時に気持ち悪そう。 ・歩きにくそう。		・むずむずした。 ・ギャザーの部分がかゆい。 ・紙おむつを履いたまま、トイレに行くと尿が出なくなった。 ・サイズが合っていなかったから、陰部との隙間に空気が入った。
	・おむつを履いている自分を見られるのは、家族でもいやだ。 ・恥ずかしい。 ・屈辱感が大きいと思う。		・不快感がある。 ・早く脱ぎたかった。 ・周りの視線が気になった。 ・寝ている間も、紙おむつに違和感があってなかなか寝付けなかった。

履く前と履いた後に思ったことの違い

- ・予想以上の不快感で、実際に体験してみないとわからない精神的ダメージを経験した。
- ・利用者の羞恥心が、理解できた。
- ・昨日と環境が変わると排尿ができないなどの健康バランスが崩れてしまうことが分かった。
- ・履く前は『利用者がおむつを履くことは習慣だ。』と思っていたが、自分が初めて同じ

体験をしたことで、おむつへの思いが変わった。

- ・自分たちは夜だけ履いたが利用者は一日中履いている。それは私たちには耐えられないと思った。
- ・もし自分が失禁の問題を抱えている利用者だったら細目に替えてほしいと思った。また、認知症などで失禁していることが自分で分からない場合、不安で仕方ないと思った。

課題2 『紙おむつのかぶれを予防するための工夫』

☆おむつかぶれの原因は資料で調べた結果、健康状態、季節的要因、紙おむつの交換頻度などさまざまな要素が関与していることが分かった。



予防には、おむつが当たっている部分の配慮と、健康保持に留意することが大切だと考えた。

健康保持の留意点

- 排尿後は出来るだけ早く取り替える。→肌を清潔に保つため
 - 肌をぬれたままにしておかない。→ぬれたままだと、かぶれてしまう。
 - 一日に一回はお湯を使って陰部を洗う『陰部洗浄』を行い柔らかいガーゼなどで、ぬるま湯で軽くしぼり腹側から尻側に向かって拭く。
- 皮膚に刺激を与えないためにぬるま湯を使う。尿路感染を防ぐために陰部洗浄を行う。

課題3 『排泄の自立支援とは何かを考える』

☆パソコンなどの情報では、「最近では、上手に紙おむつを利用することによって、お年寄りが生活を楽しむ意欲を取戻し寝たきりゼロに成功した施設がある」とあった。本来人間は活動しながら体や精神のバランスを保っているが、加齢とともに人間の機能や能力は衰えていく。できるだけ、周囲の支えで自立して生活する意欲を持ってもらうことが大切である。

●自立性の低下の様子

自立度 高い 低い

トイレ→尿器 便器 →おむつ

排泄パターンをよくとらえ、それに合った紙おむつを上手に選んで使えば、QOL（生活の質）を高めることができる。他には、トイレまで誘導し、パンツタイプや、尿パットを使い、少しでも自力で排泄できるようにする。→利用者や介護者も気持ちの上で楽になる。

表1 尿とりパット

商品名	吸収量	一個当たり値段
いちばん尿とりパットスーパー男女兼用	4 3 0 CC	9 円
いちばんワイドパット	6 0 0 CC	約 1 4 円
いちばんビックパット	8 4 0 CC	約 2 5 円
いちばん高吸収	1 2 0 0 CC	3 9 円

表2 紙おむつ

商品名	吸収量	一個当たりの値段
オンリーワン薄型パンツ M	3 0 0 CC	約 4 7 円
オンリーワン薄型パンツ L	3 0 0 CC	約 5 1 円

考察

排泄介護を行う上で、私たち介護者は利用者と同じ体験をするべきだと思う。紙おむつを履くことで、言葉では表せないような精神的ダメージや身体的ダメージを直接感じることができるからだ。今回の体験を活かして、利用者の気持ちになって介助できるようになる。尿意や便意を感じることができない利用者の気持ちになることは私たちにはできなかったが想像力を働かせて『もし自分がこうだったら』という利用者側の視点がこれからの介護に必要な。

『かぶれ』などの身体的負担は、専門職などと連携をして利用者をみんなで支えていくことが大切だ。利用者の悩みを解決するために私たちがもっと介護技術を磨く必要がある。排泄介助の自立は、介護者と利用者が協力し合うことが大切だ。

実習を振り返って

①また、15日間の実習で利用者の介助をしてみて認知症の利用者の場合、トイレ誘導から難しかった。認知症の利用者は、尿意が感じられない方が多いからこまめに声掛けをしなければいけない。

②褥瘡のある利用者のおむつ交換の時に、失禁した際に褥瘡部分に尿がかからないように尿とりパットを蛇腹折りにするといった工夫がある。

参考文献 <http://www.livedo.jp/omutsu/faq2.shtml>

利用者の気持ちに なって 排泄介助を考える

実習施設：ナースিংホーム市川
2年7組 20番 桜庭 光
37番 山下 希



テーマ設定の理由



- パンツから紙おむつに替えた利用者の気持ちの負担を考えてみたかった。
- 利用者と同じ体験をすることで、利用者の身体的ダメージを考えてみたかった。
- 紙おむつのデメリットである『かぶれ』を予防する方法を考え、次の実習に活かしたいと思った。
- 排泄の自立支援とは？



課題1 利用者の気持ちになってみる

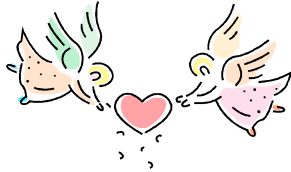
身体面

- ・ギャザーの部分が皮膚に密着してかゆいと思う。
- ・陰部に熱が集中して、起床時に感触が気持ち悪そう。
- ・歩きにくそう。



精神面

- ・屈辱感が大きいと思う。
- ・履きたくない。
- ・おむつを履いているところを見られるのは家族でもいやだ。
- ・恥ずかしい。



履いてみて感じたこと

身体面

- ・ムスムスした。
- ・ギャザーの部分がかゆい。
- ・紙おむつを履いたままトイレに行くと尿が出なくなった。
- ・サイズがあっていなかったから、陰部との隙間に空気が入って、気持ち悪かった。

精神面

- ・不快感がある。
- ・早く脱ぎたかった。
- ・周りの視線も気になった。
- ・寝ている間も、紙おむつに違和感があってなかなか寝付けなかった。



おむつを紹介します



私たちが履いたおむつ

かゆかった所



課題2 紙おむつのかぶれを予防するための工夫



おむつかぶれの原因は資料で調べた結果、健康状態、季節的要因、紙おむつの交換などさまざまな要素が関わっていることが分かった。



予防には、おむつが当たっている部分の配慮と、健康保持に留意することが大切だと考えた。

課題3 排泄の自立支援とは何かを考える

本来人間は体や精神のバランスを保っているが加齢とともに人間の機能や能力は衰えていく。
→周囲の支えで自立して生活する意欲を持てもらう！

●自立性の低下の様子



<結果>

その人にあった紙おむつを選べば、QOLを高めることができる。トイレ誘導、パンツタイプ、尿パットを使った工夫。

考察



- 利用者の気持ちになることで→精神的、身体的ダメージを感じることができる。
- 「もし自分がこうだったら」と利用者側の視点に立つ。
- かぶれ→専門職などと連携して利用者さんを支える。
- 排泄介助の自立→その人に合った紙おむつの提供。

利用者本位の排泄介助を実践し、
私たち介護士は常に介護技術を
向上させなければならない。

ご静聴ありがとうございました。

